「賢いAI」から「稼ぐAI」へ：AI時代の知財戦略 大転換

問題：AI評価のパラドックスと新基準

AIの「賢さ(IQ)」

ビジネスでの
「体感価値」

ベンチマーク性能が向上しても、実務での
生産性向上に繋がりにくくなっている。

三層ブロッキング戦略：「特許×秘匿×契約」の複合防御

競争優位の核となるデータや運用ノウハウを多層的に保護する。

解決策：新時代の知財戦略と組織モデル

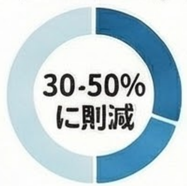
新評価指標「GDPval」：AIが生む経済価値を問う

評価軸は「正解率」から「信頼性」と「ROI (投資対効果)」へ移行する。

知財部門の2層構造化：人間は「価値創造」へシフト

第2層：戦略部
経営参謀

第1層：保護部
AIスーパーバイザー



定型業務をAIに任せ、
人間は経営に責務する
戦略業務に集中する。

AI投資の真の価値は「戦略業務による事業貢献」にある

単なる工数削減だけでなく、
開発前倒しやリスク回避価値を
評価することが重要。